

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	茨城県	市町村名	日立市	大学名	
派遣日	令和3年7月15日(水曜日) 13:25~14:55 1 講師紹介 2 自己紹介 3 協議(質問事項に基づく助言) 4 意見交換 5 謝辞 ※派遣当日の日程を詳細に記入してください。 ※派遣当日の次第、研修実施要項・日程表等、日程の詳細が分かる資料を添付してください。				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 派遣 / (遠隔)				
派遣場所	(日立市教育委員会)				
アドバイザー氏名	横浜市教育委員会事務局学校教育企画部小中学校企画課 主任指導主事 土屋隆史 氏				
相談者	日立市教育委員会 日立市文化・国際課				
相談内容	1 プレスクールの必要性や意義について 2 プレスクールを開設するための準備や、起案から設置・運営等のプロセスについて 3 プレスクールの拠点等について 4 プレスクール支援者養成講座について 講座の中で実施すべき内容や、講座修了者の今後の取り扱い(プレスクール事業への関わり)等について 5 学習の様子や評価、進路の助言方法について 6 これまでの本市の取組(通訳ボランティアの派遣、試行的なプレスクールの実施)について				
派遣者からの指導助言内容	1 横浜市は「プレクラス」と「プレスクール」があり、プレクラスは学校に在籍しながらの超初期のサバイバル。転入直後の外国人が適応できるような支援を行う。学校生活の体験に似た清掃や朝の会、避難訓練も実施する。特別の教育課程で、学校は出席扱いになる。学校に慣れるためという要素が大きい。どのような児童生徒をターゲットにするかによって内容は変わってくる。学校の負担軽減、初めて外国人児童生徒を受け入れる学校のフォロー、本人や保護者の不安感の軽減などが大切である。 プレクラスに在籍することがゴールではなく、楽しく生活できるようになることがゴールである。 2 学校がどのようなニーズを求めているか、学校でどこまで受け入れられるか、学校に在籍するか、在籍する前に通うのか等により、準備は異なってくる。日本語指導を必要とする児童生徒が在籍している学校長との検討委員会も必要である。通訳者、広報を担当する行政機関、教育委員会、国際交流機関への委託などの連携が考えられる。				

	<p>横浜市のプレクラスでは、資格のある日本語講師と教員免許を所持している指導者がペアになり指導にあたっている。教科的な内容を指導することを考えると、教員経験のOB、OGにボランティアに入ってもらうのがよい。</p> <p>3 国際交流教室等の大きな規模の施設は必要なく、指導者を各学校に派遣する、または、拠点校に子どもたちを集めて指導する方法がある。しかし、プレスクールを設置する場合、場所の選定は難しく、学校の敷地内か敷地外かで交通の利便性や交流の機会等、それぞれにメリット、デメリットがある。</p> <p>4 学校の先生方がボランティアに対して、閉鎖的と批判されることがあるので、ボランティアに対して、個人情報の守秘や学校で外国人児童生徒をどのような思いで受け入れているかといった内容を、担当している先生や管理職から説明する必要がある。</p> <p>5 学校には、個別の支援計画を作成してもらい、情報共有と次の指導に生かすよう伝えている。神奈川県では、多言語で高校進学ガイドブックを作成し、必要に応じて配付している。保護者との三者面談や説明会、国際教室の担当者向けに高校入試に特化した研修会を実施している。</p> <p>6 学校はボランティアを派遣してもらうことはありがたいことだが、負担感が増さないよう校内で教員同士の連携が大切である。プレスクールの配置は横浜市の日本語教室に似ていて、良い取組である。中学生対象であると、さらに効果が上がると思われる。</p>
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<p>1 プレスクール設置に向けた定例会の実施 (1) 担当課との協議 (2) 日本語指導を必要とする児童生徒が在籍する管理職を招いての協議</p> <p>2 支援者養成講座の実施 (1) 目的 プレスクールにおいて、外国人児童生徒への日本語学習を支援する際に必要な知識や技術を学ぶ。 (2) 開催時期 令和3年10月～12月予定(8回予定) (3) 対象者 市内の日本語教室で活動する日本語教育ボランティア等</p>

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、[文部科学省ホームページ](#)で公開いたします。